



ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL69 平成 26 年 1 月

ホスピタウン合同新年挨拶会
2014. 1. 4



知的ビッグバンを目指して

新年明けましておめでとうございます。

去年は真誠会創立 25 周年として各種施設を建設し、まさに真誠会にとって次の四半世紀に向かってのビッグバンでした。

これは主にはハード面のビッグバンでした。本当のビッグバンはハード面のビッグバンにふさわしいソフト面でのビッグバンだと思います。すなわちスタッフの知識、技術、そしてそれを司る愛が大切です。また、それを人に伝える情報のつながりすなわち内的、あるいは外に向かっての連携の広がりです。

幸い平成 24 年度は厚生労働省の在宅医療連携拠点事業をさせていただきました。平成 25 年度も鳥取県の在宅医療連携拠点事業をさせていただいており本年度も継続して行う事業です。

ビッグバンは花火のように派手に光ったあと消滅するものではありません。本当のビッグバンは、光り続けながら広がって行かなければなりません。

平成 26 年の真誠会は知識、技術、愛を光らせながら次々にその光を広げ、つなげて行くことにより在宅医療の実践、新しい医療福祉の世界の実現、助け合いの社会、認知症でも安心して生活できる社会の実現、そして包括ケアシステムの具現化を目指したいと思います。これが平成 26 年の知的ビッグバンです。



社会福祉法人 真誠会
医療法人 真誠会
理事長 小田 貢

医療・介護保険制度改革の荒波に向かって

社会福祉法人、医療法人真誠会 理事長 小田 貢

日本は、2025 年には「団塊の世代」（昭和 22（1947）～ 24（1949）年に生まれた人）が後期高齢者になり、3,657 万人に達すると見込まれています。日本の医療、介護保険が最大の問題にさらされる年です。2025 年には、言い換えれば、私たち医療・福祉関係者にとっても最大の危機にさらされる時でもあります。

現在、日本の経済はアベノミクスで雰囲気的には光が見えつつあるようにみえますが、原発がすべて停止している状態での発電のため化石燃料の輸入をはじめ、いろいろな要素のために実際には日本の経済はマイナスに向かっており、これが急激に反転する材料はなく、持続可能な社会保障制度といっても内容は、じり貧になって行くと思われまます。

そうであることが明白な今、将来に甘い夢を描かず、2025 年を最大の危機ととらえて、今から万全の体制を整える必要があると思います。2025 年までのこれから 11 年間で実行するのではなく、ここ 2 から 3 年、遅くとも 5 年以内に揺るぎない体制を整える必要があると思います。

そのため真誠会は昨年施設を次々新設し、まさにハード面でのビッグバンを起こしました。そしてこれからの 2 から 3 年は愛情、知識、技術、精神的な豊かさなどを基盤に、積極的に社会に出て行き、地域とともに存在する真誠会を作り上げるというソフト面でのビッグバンを起こさなければなりません。

これから本格的に始まる包括ケアシステムを作り上げ、2025 年に確実に起こってくる社会保障の危機、社会構造の危機、もっとはっきり言えば日本の社会を揺るがす危機を乗り越える力強い、助け合いの社会を構築することが必要です。

現在、盛んに言われている、「東海」「東南海」「南海」の 3 地震が連動して起こるマグニチュード (M) 9 クラスの「南海トラフ巨大地震」の発生が懸念されていますが、いつ起こるかわかりません。しかもこれらの地震は部分的には堤防、避難ビルなどハード面で被害を少なくすることができます。

しかしながら 2025 年問題は確実に 10 年後に来る日本全体の危機でありハード面だけでは救われません。唯一人間の心、人とのつながり、助け合いでのみ克服できる危機であり日本人の能力が問われる時でもあります。

本年はこのような問題の解決に向かって行く第 2 段階の年と思っております。

第17回ホスピタウン交流会in米子2013



平成 25 年 11 月 30 日、「第 17 回ホスピタウン交流会 in 米子 2013」が真誠会で開催されました。ホスピタウン交流会は真誠会ができてから、共通の理念と友情で結ばれた医師が毎年持ち回りで意見交換、友情交換を行っているもっとも大切な交流会です。

メンバーは、医療法人相生会 にしくまもと病院 病院長 林 茂先生、医療法人社団まほし会 真星病院 院長 大石麻利子先生、公立八鹿病院 救急科・総合診療科 部長 倉橋卓男先生と真誠会理事長 小田 貢です。

米子に到着した一行は、新しく建設された真誠会セントラルレジデンス、複合型サービスふる里、グループホーム「椿庵・桜庵」を見学。その後、それぞれの病院の取り組み発表や意見交換会が行われました。そして最後に小田貢理事長による講演「今起きている医療福祉のパラダイムシフトを先取りする」が行われました。講演会の後、真誠会スタッフも意見交換に加わり有意義な交流会となりました。

本年のホスピタウン交流会は真星病院で開催され、翌年は、にしくまもと病院で開催されます。ちなみに林先生は、にしくまもと病院を中心に熊本ホスピタウンを展開されています。



夜は、トップ会談を開き、思い出話に花が咲きました。長年にわたり友情関係を築いてきた仲間であり、本当の兄弟同士にも劣らない強い絆で結ばれています。

真誠会創立25周年記念講演会

平成 25 年 10 月 31 日、弓浜ホスピタウン（2000 年ホール）にて真誠会創立 25 周年記念講演会兼包括ケア勉強会が開催されました。

参加者は真誠会スタッフ約 250 人、弓浜地区の医療関係者、地域の社会福祉協議会関係者、米子市役所、鳥取県西部総合事務所福祉保健局からの参加がありました。

講演内容は、「真誠会ビックバンで起きる革新的変化」と題して、地域包括ケアとは何か、在宅医療連携拠点事業とは何か、米子市和田町での地域活動、真誠会が今まで行ってきた地域包括ケアについて、今後地域包括ケアのためにどのような活動が必要か、などについて小田理事長が情熱的に講演を行いました。平成 26 年からこのような活動が具体的に進められることが楽しみです。



25 周年記念講演会と合わせて、永年勤続表彰の式典も行われました。理事長より、「皆さんの耐える力に感動します。これからも他のスタッフの見本になる生き方を示し、また真誠会の理念、歴史を他の職員に伝えていってください」と心温まるメッセージをいただきました。

介護プロフェッショナル段位制度 評価者（アセッサー）講習を受講して

介護老人福祉施設ピースポート 介護主任 馬野 浩次

平成 25 年 11 月末日、介護プロフェッショナル段位制度 評価者（アセッサー）講習を、真誠会から 18 名受講し受講者全員が試験に合格しました。

介護プロフェッショナル段位制度とは、平成 24 年度より導入された新しい制度です。評価者（アセッサー）は、介護サービスを提供する職員を、職員が持つ能力や技術に応じて評価します。

評価する基準を学ぶことで、必要とされる介護サービスについて改めて勉強し直す機会となり、私たち介護職員への大きな期待と使命感を実感しました。新制度の先駆けとして、より良い介護を目指そうと 18 名一致団結し向上心を燃やしております。

レベル評価を受けることにより職員の成長へと繋がり、皆様へ質の高い介護サービスが提供できるようになると考えます。今後、レベル認定者を育成していくと共に、介護のプロフェッショナルとして皆様に信頼される職員、事業所として安心できるサービスをお届けできるように、志高く頑張りたいと思います。



評価者講習修了証を手に、合格者の記念撮影

第9回 弓浜助け合いネットワーク

～いつまでも 地域で、在宅で～

【主催】米子市（米子市弓浜地区地域包括支援センター）、弓浜助け合いネットワーク実行委員会
 【共催】社会福祉法人真誠会、NPO 法人がいなネット、在宅医療連携拠点事業コズミックリンク

米子市弓浜地域の住民、行政、専門機関が連携して地域づくりを考えるシンポジウム「第9回弓浜助け合いネットワークの会」が11月19日、同市大崎の弓浜ホスピタウンで開かれました。「いつまでも 地域で、在宅で」をテーマに、基調講演や認知症への理解を深める寸劇、意見交換会などが行われ、ますます重要になる助け合いの社会について理解を深めました。



認知症への理解を深める寸劇などを通して
 住みやすい地域づくりに向けて学び合いました。



弓浜地区の地域住民など約 300 人が参加し、会場は満員
 となりました。

閉会では小田理事長の指揮のもと、和田公民館ハーモニカ
 同好会が「花は咲く」を演奏し、会場全体で大合唱しました。

基調講演/「ますます重要になった助け合い社会」

医療法人・社会福祉法人 真誠会 理事長 小田 貢

いつまでも在宅で、そして最期は家で迎える。それには、助け合いの社会が必要です。大きなテーマ
 としては「在宅で医療を受けながら生活する」ということと「認知症」という大きな課題を抱えています。

■認知症と向き合う

私は厚生労働省認定の「認知症サポート医」の一人として、認知症の早期発見に努めてきました。
 問題は、認知症の方を地域でどう受け入れ、向き合うか
 です。弓浜地区では9年前からこの会で、地域をあげて
 認知症のことを勉強してきました。認知症やいきいきサ
 ロン、地域の活動発表など。また、本日のような会の開
 催に取り組んでいる地域はまだ少ない。こうした活動を
 全国に広げたいというのが私の夢です。

2025年には今のままでは国の財政は破綻するとも言
 われます。今のうちから、病気になっても家で過ごせる
 社会を作ってほしい。近い将来グループホームも満床と
 なるでしょう。認知症の方を地域でみて、認知症の方が
 地域で生活出来るようにしてほしい。そのために包括支
 援が必要となるわけです。

「自助・互助・共助・公助」という言葉があります。「自助」



意見交換会

「意見交換会」では、弓浜地区で寝たきりの夫を長らく介護している家族の木村順子さんの体験を通して介護家族や主治医らが問題点について意見交換会を行いました。



介護家族
木村 順子さん

夫は訪問看護やデイサービス、リハビリ、ヘルパー、入浴などいろいろな社会的支援サービスを受けながら日常生活を送っています。ケアマネージャーに連絡すると、状態に応じて、全て手配してもらえるのでとても安心していられます。この前も緊急で病状が悪化し、すぐに真誠会セントラルクリニックに入院させていただきました。病気以外のことでも皆さんが相談に乗って、教えてくださいるので心強く思っています。



とみます外科
プライマリーケアクリニック
院長 廣田 裕先生

木村さんのご主人は、認知症はなく、体を動かすことができない在宅の患者さんです。病状が安定していて家に居られる時は、私が主治医で週1回診ています。われわれ在宅医が一番怖いのは緊急事態の時です。そのとき医療がどれだけ速やかに対応できるかが一番大事になります。今は小田先生の真誠会で引き受けていただけて助かっています。受け皿があるということが非常に重要です。



米子市認知症地域支援推進員
吉野 靖子さん

認知症地域支援推進員は国の事業で行っています。基本的に認知症の方が第一となりますが、木村さんのような家庭からのご相談も受けています。この弓浜地区のように、皆さんが関心を持って助け合っていく。また、家族が介護疲れを癒やせるような体制がとれるところは残念ながら少ないのが現状です。地域の包括支援センターや民生委員などに気軽に相談できる輪が広がれば理想的な支援につながっていくと思います。



司会
小田 貢

いろいろな専門職が患者の情報を共有し、意見を交し合う。その中で診てもらえるという非常にいい時代になりました。

「地域で」「在宅で」いつまでも助け合い、社会的支援を使いながら幸せな人生を最後まで過ごす。それが私の願いです。

弓浜地区が安心して最後まで人生を送れる場所になることを願っています。

※本文中にある木村さんの夫は本会開催後、ご家族に見守られながら逝去されました。

ワークショップアクティブ
による作業所販売コーナー
も大盛況でした。



意見交換会の様子



来場者にハンドマッサージ
をする米子松蔭高生



「認知症サポーター養成講座」 真誠会の職員が名札や腕にオレンジの リングを付けています

真誠会では「全職員が認知症サポーターとなるための意識づくりとリーダーシップをはかろう!!」を合言葉に、全職員と地域の方に向けて講座を開催しています。

これは厚生労働省の「認知症サポーター100万人キャラバン」というキャンペーンの一環で、認知症講習会の受講者100万人を目指しています。この講座は介護の専門職の人を対象にしているのではなく、地域の人たちが認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する「認知症サポーター」となって、暮らしやすい地域を作っていこうというものです。サポーターには認知症の人を支援する目印として「オレンジリング」を渡しています。

認知症パイロット事業と弓浜包括支援センターの共催で今年度より、全職員が認知症サポーターとなることを目指しており、現在、真誠会には認知症サポーター養成講座の講師役であるキャラバンメイトが22名います。キャラバンメイトを中心に4回の講座を行い12月で270名のサポーターが生まれています。

全職員が認知症サポーターとなることを目指し、今後もこの講座を地域に広げていきたいと思えます。このことにより、真誠会が目指す「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」作りに一歩でも近づけることができ、地域の皆さんの期待に答えられる活動を展開していきます。



■真誠会認知症パイロット事業とは……認知症の早期発見、早期対応を行うことで、住み慣れた地域で暮らし続けることができることを目指している。そのために、認知症に関するさまざまな啓発活動や関係者とのネットワークづくりを行う真誠会独自の取り組みのこと。

介護の日イベント

11月11日の介護の日に先立ち、11月3日に、昨年に続き米子市文化ホールにて「第4回 真誠会介護の日イベント」を開催しました。

健康運動指導士による介護予防の体操やダンス、口腔・栄養・健康相談など9つのブースを設け悪天候の中ではありますが、約130名の来場がありました。

来場された方の中には、介護職として働いている方や毎年イベントを楽しみにして下さっている方など様々で、「自分の健康についても改めて考える機会となりとても参考になった」、「同じ介護の仕事をしているので、大変参考になった」等、たくさんの貴重なご意見、感想を頂戴しました。

今後も地域密着、地域への貢献を目指し、「介護の日」を明るく楽しく盛り上げて行きたいと思えます。



高齢者生活支援隊によるブースでは、お弁当の配食サービスについての質問や介護用シューズに興味をもたれる方が多かったです。トリコネージュコーヒー（認知症予防につながるコーヒー）の試飲コーナーは大賑わいでした(*~*)



高齢者疑似体験コーナーでは、実際に手袋をはめて小さい物がつかめるがトライ! うーん、頭で思っただけでもなかなか難しいものです(〇〇)

在宅医療連携拠点事業Cosmic Link活動報告

平成25年度鳥取県原子力防災訓練〔災害時用援護者避難訓練〕を実施しました。

在宅医療連携拠点事業 Cosmic Link は、本年度、県の地域医療再生基金事業として採択され、引き続き事業を展開しています。その活動のひとつとして、災害・事故発生時の対応の検討を行っています。

平成 25 年 11 月 10 日、島根原子力発電所にて事故発生時の想定のもと、鳥取県原子力防災訓練が行われました。介護老人保健施設ゆうとぴあを訓練施設の対象として、高齢者施設における災害時用援護者避難訓練を実施し、約 60 名の職員が参加しました。

事故発生後から避難までの、施設での実施事項の想定に沿って、入所者の避難についての検討、避難時の持ち出し品（薬等）の準備等行いました。

避難訓練では、模擬入所者の居室から避難車両への誘導、避難車両への乗り込み、避難先である自衛隊米子駐屯地までの移動を行いました。

真誠会は高齢者施設として、入所者や利用者の方の安全な避難の実施が求められます。さらに、災害時には行政（県、市）からの情報収集が重要となります。訓練の教育や、行政との連携体制、避難計画のマニュアル化が必要と考え、今後の取り組みの課題としています。



自衛隊が派遣した避難車両で避難するなど、自衛隊とも共同して訓練を行い、実際の災害時の自衛隊と入所施設の連携のあり方について検討することができました。



対策本部で避難状況を把握します。



訓練後は、訓練の内容についてパネル展示を行い、災害に関する啓発活動も行っています。

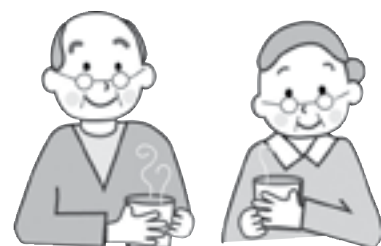
認知症カフェ（オレンジカフェ）＆サロンの展開

平成 25 年、真誠会では認知症カフェ＆サロンを、弓浜ホスピタウン、外浜ホスピタウン（複合型サービスふる里・富益）、米子ホスピタウン、米子中央ホスピタウン（ローズガーデン、セントラルローズガーデン）の 6 箇所に展開する計画です。

厚生労働省のオレンジプランには認知症カフェとは「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場」とありますが、真誠会の認知症カフェは、認知症患者さんやご家族、地域住民の方々が集い、悩みを打ち明けたり、認知症に関して話し合ったり、気軽にお茶を飲んで交流したりする居場所作りにしたいと思っております。

そして発展すれば、認知症初期集中支援チームの耳となり、目となり支援チームと協力して行きたいと思っております。

本年 3 月には準備を開始して、4 月から当面は一月に一回、認知症カフェを展開していきたいと計画しています。



辻田耳鼻咽喉科

ミケランジェロ



辻田耳鼻咽喉科
院長 辻田 哲朗

イタリア旅行の続きです。今回の旅行の目的の一つはミケランジェロに会うことでした。なぜかダ・ヴィンチよりも惹かれるのです。このミケランジェロは芸術家としては文句なしに超一流ですが、激情家で偏屈でよく言えば孤高の人と言えますが、まあ世間から見たら付き合いにくい変なおじさんだったと思います。そこがまたいいんです。彼が聖人君子のような人だったら何の面白味もないのです。

ローマのサンピエトロ大聖堂に彼が 24 歳の時に作製したピエタがあります。ピエタとはマリアが亡くなったイエスを抱いて嘆き悲しむ様をいいますが、このミケランジェロのピエタを見ると、マリアは母というより汚れを知らぬ乙女のようにです。ミケランジェロのマリアへの想いが伝わって来ます。それにしても大理石の塊からノミ一つで人物を彫りだし、しかも繊細な表情まで作り出すなんて神業です。ミケランジェロは死ぬ間際までこのピエタを作っていたからよほどこのテーマが好きだったのでしょう。

フィレンツェには有名なダビデの像があります。意を決していざゴリアテに石を投げようとする青年ダビデです。はるばるイタリアまで来た甲斐がありました。このダビデの像ですが、真横から撮った写真だとかなり頭でっかちに見えますが、下から実物を見上げると遠近法で丁度良いバランスになり、ダイナミックな迫力が伝わってきて、やはりミケランジェロは天才です。それにしてもフィレンツェには世界中から観光客が来ていて、人で溢れてました。



ミケランジェロ作・ピエタ

いえはら歯科

2014 年頭の辞



いえはら歯科
院長 家原 猛

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

昨年は日本にとって喜ばしいニュースがいくつかありました。6月22日、カンボジア・プノンペンで開かれた国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)の世界遺産委員会で、日本が推薦していた「富士山」(山梨県、静岡県)が世界文化遺産に決定したこと。

そして9月7日、国際オリンピック委員会(IOC)総会がブエノスアイレスで開かれ、IOC委員による投票で、2020年夏季五輪・パラリンピックの開催地が東京に決定したこと。

11月3日、プロ野球の楽天が日本シリーズ第7戦で巨人を3-0で破って、球団創設9シーズン目で初の日本一を達成したこと。東日本大震災が発生した2011年のシーズンから3年目での栄冠で、仙台市を本拠地とし、野球を通じて被災地のファンを勇気づけました。田中将大投手は記録的な大活躍で大きく貢献しました。

待望だった読売巨人軍終身名誉監督の長嶋茂雄氏と、巨人と米大リーグ・ヤンキースなどで活躍した松井秀喜氏に国民栄誉賞が授与されたこと、などでしょうか。

一方で10月、大型で強い台風26号に伴う記録的な豪雨により、伊豆大島(東京都大島町)で大規模な土石流が発生し、土石流は集落を襲い、35人が死亡し、4人が行方不明となる惨事となりました。関東地方では竜巻による被害もありました。近年、災害は増加している印象です。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

報道される景気は上向きだとか。依然夜風が身にしみる今日この頃。

今年一年が皆様にとって倅多い年となりますよう、皆様方のご健勝を心から祈念し、変わらぬご厚誼ご愛顧を賜りますことをお願いしつつ、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶 ~ 本年も

何故気になるたった一人の悪い評判



介護老人保健施設
弓浜ゆうとびあ 施設長
五明田 孝

明けましておめでとうございます。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

昨年、真誠会はビッグバンと表現されるような多くの事業が展開され更に発展を続けるのは誠にうれしい限りです。それに伴って多くの新人職員の入社があり教育、研修が行なわれました。その講師の一人として少しショッキングな事がありました。講義中にウトウトした人があったとのこと。相手側の精神的身体的条件（緊張や不安でよく眠れなかったのでは等）を推測することよりも当方の内容が面白くなかったのか、つまらなかったのでは、やり方が拙かったのでは、熱意が伝わらなかったのでは、いやそんな筈はないとずっと気になっていました。そんな折、心療内科医の梅原純子先生の文章に出会い悩む原因が少し理解できました。心理学者のポール・ロジンによるとマイナスはプラスを圧倒するという。脳は怒った顔を大勢のニコニコ顔の中から優先的に

見つけ出すメカニズムを持っている。動物の脳には悪いニュースを優先的に見つけ出し処理する能力が組み込まれており、これは生物が生き延びるための危機回避のメカニズムになっている。別の研究者によると人間は悪い感情、悪い評判を良い評判よりずっと詳しく検討する。悪い印象は良い印象よりもずっと容易に形成され、しかもなかなか取り出せないという。成る程たった一人の悪い評判がずっと気になっているのは人間が生き延びるために必要になった脳のメカニズム、つまり危機回避、損出回避のしくみによるものかと思うことで理屈は理解出来ました。それを理由にして工夫、改善を怠ることは許されないことでしょうか。悪いことは良いことより気になるものである。

ともあれ午年の今年が一層飛躍の年になるよう心から願っています。



介護老人保健施設
ゆうとびあ 施設長
中下 英之助

団塊世代の老後予測

少子高齢化は団塊世代の前期高齢者の仲間入りにより急速に加速して、将来の介護難民も危惧されています。堺屋太一の『あって欲しくない日本』を描く予測小説として書かれた『団塊の世代』、『平成三十年』、『団塊の秋』より団塊世代の半生を考察してみます。

私の学生時代は学園紛争の煽りで、医学部は医療・医局改革の名の下に半年間のストに突入し、同級生間ではスト賛成、反対派に分かれ激論を繰り返しましたが、クラス会の決定事項は遵守して、無事に6年間で卒業となり、今日では懐かしい思い出です。1972年に母校の泌尿器科に同級生4人と共に入局しました。医局生活では、教室の教育方針として、研究、出張病院での研修機会の平等が保障されました。

全員が30歳前までに結婚し、30歳前半に学位を取得して、30歳代の中頃までに各自が出身地の病院に就職しました。現在病院勤務医退職した2人は院長退職後経営管理者と副院長を退職後はパート勤務の傍ら趣味に専念、開業医は2人、開業医から老健施設勤務医が1人です。全員の子供が医師になりましたが、最近の同窓会の話題では後継者はできたけど晩婚化で子供の結婚が悩みとなっています。

各人事情は異なりますが、大学卒業41年経過してなお新入局時とスタンスが変わらないのは、同級生は各自が後れはとるまいと努力しますが、あえて手を打ち負かさない競(emulation)や仲間意識が根底にあるようです。

『団塊の秋』をなりたいくない老後として読めば楽しめます。老後の予測には自身の遺伝子が関与すると思えます。年始での親類との付き合いは、自己の由来を確認するよい機会かも知れません。

今年もよろしくお祈りいたします。



特別養護老人ホーム
ピースポート 施設長
矢倉 敏久

新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。

特別養護老人ホームピースポートの施設長として4年近くが過ぎました。経験の無い仕事だったのですが、ご利用者様やご家族の皆様、職員達に助けをいただいて、今日までなんとか勤まっています。

最近、厚生労働省は、訪問の医療、福祉のサービスを利用しながら最後まで在宅で生活することを勧めています。

それができれば、本人や周りの人にとっても幸せなことです。そのためには、これから住環境とか医療福祉サービス、地域社会の仕組みまで、大きく変えていかなければいけません。

真誠会は、これまでも高齢者の在宅生活を支えるための医療、福祉サービスや、食事や日常の雑用までといった生活支援サービスの充実力を入れてきて、今ではかなり充実して来ていると思えます。

しかし、最後は特別養護老人ホームに入れるじゃないか、というのが安心感になると思えます。

最後に頼りにされる施設として、皆様のご期待にお応えできるよう、職員と一丸となって今年もがんばります。

よろしくお願ひ致します~



医療法人真誠会理事
真誠会セントラルクリニック
院長代理
地域医療統括
石部 裕一

新たな四半世紀に向けて

新年明けましておめでとうございます。

本年が皆様と真誠会にとって輝かしい年となるようお祈り申し上げます。

皆さまご存じのごとく真誠会は昨年創立 25 周年を迎え、医療、介護、福祉施設として大きな発展を遂げました。とくに昨年はグループホームの増設とサービス付き高齢者住宅の新築事業が完成し、ハード面での整備は一段落した感があります。新たな四半世紀に向けての課題は、理事長のメッセージのとおり、この施設を信頼して利用して頂く人々に最高のサービスが提供できるように、各部署では一層の努力をして名実ともにトップクラスの医療・福祉法人真誠会を作り上げることです。そのためには全ての

職員が自信と充実感をもって自分の仕事実践出来るよう知能と技能を修めると共に、医療人としての徳性を養うことが大切です。知能・技能に徳性を備え持った職員、充実した施設と設備、整備された法人体制が揃ったときにはじめて、利用者、法人、職員の三者すべてが幸せになる win-win-win の関係を築くことができるでしょう。真誠会職員の皆様には、研修会への積極的参加や専門資格の取得などを通して己を修める努力を続けられるよう切望します。

さて、私事ですが、昨年 4 月、理事長の地域医療に灌ぐ熱い情熱に共感して真誠会に奉職し、幾つかのカルチャーショックを乗り越えながら激動の 9 ヶ月をただ駆け抜けていった・・という印象です。今年は、改めて一医療人として最新の医療に関する知能、技能を向上させ、「患者のための医療」をモットーに努力すると共に、介護、福祉分野の勉強にも取り組む所存です。また、昨年どおり山陰労災病院の再開発事業と日本医療機能評価機構の訪問審査業務も継続させていただき、その成果の一部でも真誠会の法人管理に貢献できればと考えています。

本年もどうかよろしくお願ひします。



~2014年の年頭に思うこと~



看護・介護統括部長
三ツ木 育子

昨年は、真誠会創立 25 周年の節目の年で、2 つの新規事業、サービス付高齢者専用住宅と認知症グループホーム 2 ユニットが立ち上がりました。

超高齢化社会の到来を見据え、厚生労働省が進めている地域包括ケアシステムの「住まい」の要素が補填され、真誠会グループが地域包括ケアシステムの 5 要素全てが整ったこととなります。

国政の潮流を先取りした理事長の強いリーダーシップで、医療・福祉サービスを提供するハード面が整えられたことになり、確固たる礎が構築された実り多い年でした。

2014 年を迎え、私達がより一層努力し、磨いていかなければならないのは、ソフト面、提供する医療・介護サービスの質の向上です。

ご高齢の方々はもとより、その方々を取り巻く人々や地域に満足していただけるサービスを提供出来る年にしていかなければなりません。更に、医療・介護サービスは、人から人に提供される人的サービスで、しかも医療・介護に問題を抱えた方々の問題解決をしていかなければなりません。

サービスを提供するためには、多くの能力が必要ですが、最も求められるのは、人間関係調整能力と問題解決能力だと私は考えます。

真誠会は事業拡大に伴って、事業所も増えその事業所を束ねている所長の力が重要なカギとなります。現在、所長達は、この 2 つ能力を高める研修をコース研修で継続的に学んでいます。

医療・介護サービスは専門職が協働して提供しています。それぞれの専門職が持てる知識・技術を磨き、強みを出して協力し合えるチームづくりと、職員同士が認め合い、高めあえる職場づくりが急務です。

『ES (職員満足) 無くして、CS (顧客満足) は無し』と言われるます。

満足のいくサービスを提供するためにも、働く人が働きやすく、働き続けられる職場づくりを看護・介護統括部長である私の最大の課題として、力を注ぎたいと年頭に当たり思うところです。

新年のご挨拶 ～本年も



介護老人福祉施設
ピースポート 看護師長
小徳 美千子

介護保険の中では介護老人福祉施設は、生活援助や機能訓練などのサービスを提供することで、要介護者の自立支援をする施設であります。その中で当施設は固定チーム制、継続受け持ち制を取り、昨年度より専任の理学療法士、管理栄養士と歯科医、歯科衛生士と他職種連携をとりながら口腔管理、栄養管理などを実施し自立支援に向けて取り組んできました。さらに新しい年には認知症ケアにも力を入れ、認知症があっても穏やかに豊かな人生を送ることのできる施設を目指して、職員一同頑張っています。

・認知症対応医療機関として、認知症早期発見の強化に努めます。(物忘れプログラム、タッチパネルの活用)
・がんターミナル患者の受け入れ、個々の患者様にあったケア、看取りの形、グリーフケアを重視していきます。
・在宅支援の取り組み(患者・家族に合った退院支援とサービス調整、訪問診療、24時間対応)
・職員のワークライフバランスを考えて、働きやすい職場作りに努めます。



セントラルクリニック
副看護師長
市川 登志子

・在宅支援の取り組み(患者・家族に合った退院支援とサービス調整、訪問診療、24時間対応)
・職員のワークライフバランスを考えて、働きやすい職場作りに努めます。

・在宅支援の取り組み(患者・家族に合った退院支援とサービス調整、訪問診療、24時間対応)
・職員のワークライフバランスを考えて、働きやすい職場作りに努めます。



介護老人保健施設
ゆうとぴあ 管理者
岡田 修治

ゆうとぴあの管理者となり、早いもので8ヶ月が経ちました。まだまだ経験も少なく、毎日が勉強ですが、日頃よりご利用者様、ご家族様、地域の皆様方にはご支援、ご協力いただき誠にありがとうございます。

今後も地域の方々に広くゆうとぴあをご利用していただくためにも、在宅復帰支援はもちろんのこと、一人一人が歩んでこられた人生を尊重し、「自分の大切な家族を安心してお願いできる施設づくり」を目指し、心こもった介護を職員一同熱い気持ちで取り組んでいきたいと思っております。



通所リハビリテーション
真誠会 看護師長
佐平 登志美

昨年中は、多くの利用者の方々に支援を頂きありがとうございました。

2014年は、2015年介護保険改訂に備え、制度はどのように変化していくのかを推測し、真誠会を利用される方々の暮らしが継続できるように支援を行う必要

があると考えています。

超高齢化社会に対して、「生涯現役」をコンセプトに、通所リハビリテーション真誠会は利用される方々の出来る力を引き出すケアを目指します。

今年もよろしくお願いいたします。



真誠会医療福祉連携センター
センター長
小山 雅美

真誠会医療連携センターは、ご相談に来られた方が、少しでも「ほっと」していただけるために、とことん相談をお受けする窓口として業務を行っております。

昨年は、『医療』と『介護』の連携強化とともに『地域包括ケアシステムの構築』の基盤となる多職種の専門職との連携、地域との連携などを考えてまいりました。

今年度は、『連携』をキーワードに、『地域包括ケアシステムの構築』をはかるべく活動を実践してまいります。



透析施設オアシス
主任
加瀬部 寛

近年、透析患者の急速な高齢化が言われる中、当透析施設は特に老人保健施設と併設という事もあり、80歳以上が40%と高い割合で占めており認知症患者は全体の約30%となっています。幸いな事に当院長は認知症治療に長けており、認知症の予防、改善、進行の遅延が行えているので透析中の大きな事故は防げています。しかし、認知症の患者が増加傾向にある為、透析室としても今年度は、愛と知識を持って今まで以上に安全かつ安心できる透析室を目指していこうと思っておりますので宜しくお願い致します。

今年度は、愛と知識を持って今まで以上に安全かつ安心できる透析室を目指していこうと思っておりますので宜しくお願い致します。

よろしくお願ひ致します～



訪問リハビリテーション
ゆうとびあ 課長
大西 博巳

真誠会リハビリテーション専門職集団としての、今年のご目標は、①老人保健施設を「利用者の状態を良くする施設」としてのリハビリテーション機能を充実させ回復期リハビリテーション病院レベルのリハビリ機能を発揮出来るようにします。②通所リハビリ・訪問リハビリでの具体的な目標に応じたリハビリの提供ができ通所訪問で連携を強化して在宅生活が自立出来るように支援していきます。③予防の充実 以上3項目を目標に掲げリハビリテーション部門充実の1年にしてまいります。



グループホーム
椿庵・桜庵 管理者
安田 博子

グループホーム椿庵・桜庵は平成25年10月に和田町に開所いたしました。2ユニット18名の方が生活しておられます。これからグループホームは、入居者様への質の高い認知症ケアの提供のみならず、地域の皆様からの認知症についての相談や、ケア方法の講習会など、認知症ケアの拠点としての役割が期待されています。隣接する複合型サービスふる里と連携して、認知症になっても安心して住み続けることができる町づくりに貢献できるように努めてまいります。



セントラル
ローズガーデン 管理者
山根 賢一

セントラルローズガーデンは開所して2年が経ちました。多くの方々にご利用頂き、ありがとうございます。リハビリ強化型デイサービスとして、そして行事や楽しみもあふれ、体も心も元気になれる笑顔あふれる施設作りを行っています。

昨年はセントラルレジデンスが完成し、米子中央ホスピタウンとして大きな拠点になりました。住んで安心(セントラルレジデンス)、通って元気(セントラルローズガーデン)になっていただける施設として、地域の健康な町作りの一役を担って行きたいと思ひます。



真誠会セントラル
レジデンス 管理者
矢倉 ツヤ子

サービス付き高齢者向け住宅「真誠会セントラルレジデンス」はおかげさまで平成25年10月オープン以来、大変ご好評をいただいております。街の活気に包まれながら、いつまでも快適にお過ごしいただける生活環境、医療・介護の充実した安心のサポート体制。これまでのライフスタイルや社会とのかかわりを維持しながら煩わしさから開放され人生を愉しむ邸宅(レジデンス)として自信を持ってお勧めいたします。

より詳しい資料の請求、空室状況のお問い合わせ、ご見学、お食事体験(有料)など随時受け賜っております。お気軽にお電話、ご来館くださいませうお待ち申し上げます。



複合型サービス
真誠会ふる里 管理者
宇野 理奈

ふる里は、平成25年9月「複合型サービス事業所」となり、これまでの「通所」「訪問介護」「宿泊」に加え「訪問看護」サービスが加わりました。在宅介護が中心となっていく中、介護はもちろんのこと、様々なご病気や不安なことを医療面からもサポートさせて頂くことができる事業所です。平成18年8月に開所して以来、利用者様、ご家族様、地域の皆様には、ご支援、ご協力を頂き、日々感謝の気持ちを忘れずスタッフ一同力を合わせ取り組んでおります。今後も地域の「ふる里」として在宅生活を様々な角度から支援させて頂けるよう、スタッフ一同邁進してまいります。



介護予防センター
真誠会 責任者
山崎 慎吾

昨年度は、新しく「健康日本21(第二次)」がスタートしました。また、健康づくりの身体活動指針(アクティブガイド)のメインメッセージに「+10: プラステン」があります。今より10分体を多く動かしましょうという意味です。

今年も私達、健康運動指導士は皆様に色々な運動の提供や情報を発信してまいります。また、色々な地域へ行かせていただき皆様とつながっていきたくと思ひます!



新年のご挨拶 ~本年もよろしくお願い致します~



訪問看護ステーション
ネットケア 所長
仲田 美保子

ネットケア所長として名を受け早や9ヶ月が経ちました。右往左往しながらの日々でしたが、ここまで勤めることが出来たのは、やはりスタッフの力によるものだと思っております。大きな変化に対し、何をすべきかを適確に判断・実行し、個々が成長していることを実感しております。そしてこの成長は、御利用者様へのケアや多職種との連携も十分に発揮されていくことと信じております。医療・福祉の中心は、やはり本人・家族・在宅です。そこを担う重要な役割を果たすべく、ネットケアスタッフ一同、更に成長できるよう精進してまいります。



訪問介護弓浜真誠会
管理者
赤井 康人

昨年度はお蔭様で、ホスピタウンを基盤とした米子市の各地域を始め真誠会セントラルレジデンス入居者の多数の新規ご利用が頂けました。今年度も年中無休、元旦からサービスが必要なご自宅へ訪問しております。当事業所は短時間の定期訪問と随時の相談、訪問を組み合わせた定期巡回随時対応型訪問介護や定期的な援助を行う訪問介護と必要に合わせた選択肢がございます。お気軽にご相談頂けたらと思います。宜しく申し上げます。



ケアプランセンター
弓浜真誠会 管理者
竹内 奈緒美

「認知症になっても介護が必要になっても、この町でこの家で家族や仲間と一緒に暮らしたい」そんな当たり前の思いを実現するためにケアプランセンター弓浜真誠会は存在しています。当事業所は、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、認知症ケア専門士の資格を有するケアマネジャーが配置されていますが、今年はさらに研鑽を重ねて地域の皆様の思いに応えられるように努めてまいりたいと考えています。



ケアハウスリバーサイド
主任
松本 光生

昨年9月21日よりケアハウスにて勤務させて頂くことになりました。ケアハウスの運営理念として「入居者の方々が安心・安全・快適な生活が送られること」「生きがいを持って楽しく明るい生活を築けること」を念頭に職員一同努めていきたいと思っております。また各関係機関との連携を図りながら、入居者の方がより良い生活を送っていただけるよう支援に努めてまいります。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。



医療法人真誠会 常務理事・
社会福祉法人真誠会 総務課長
前田 浩寿

昨年は当社の25周年記念事業であるセントラルレジデンス、グループホーム椿庵・桜庵の完成で、「真誠会地域包括ケアシステムモデル」の“住まい”の充実を行いました。私たちは、「地域の皆様がご自宅で住み続けるために」は何が必要なのか常に感じ取るアンテナを張り、新しい取り組みを発信し続ける真誠会であり続けたいのです。今年も、真誠会グループが頑張っている姿を皆さんに見て頂きたいと思っておりますので、引き続きご指導頂きますようお願い致します。



在宅復帰される方へのお祝い

介護老人保健施設ゆうとぴあでは、在宅復帰支援に向けて様々な取り組みを行っています。

各現場にリハビリのスタッフが配置されたことで、日ごろのご利用者様の心身の状態の把握が出来、以前に比べ連携や情報共有も取りやすくなったので、在宅復帰される方が増えてきています。真誠会グループや他の医療機関との連携体制を基盤に看護・介護・機能回復訓練や日常生活訓練等のリハビリ提供を行っています。

とびっきりの笑顔でお帰りになる様子は、私たちスタッフの喜びでもあります。今後も、ご家族様の協力を得ながら安心して自立した在宅生活がお送りいただけるよう支援させていただきます。



在宅復帰を目標にリハビリを頑張られたお祝いとして、今年の9月より、在宅復帰される方にささやかではありますが、お見送りの際に花束を贈ることにしました。

弓浜ホスピタウンで「ふれあい文化祭」

米子市大崎の弓浜のホスピタウンで「第12回ふれあい文化祭」が11月28日から12月3日まで開かれ、作品展示やバザーなどを通して交流を深めました。

作品は手芸品や絵画、書、工芸品など利用者様をはじめ、地域の公民館サークル、崎津小学校、崎津保育園の皆様から約400点が展示され、利用者様やご家族様、地域の皆様が熱心に観賞されていました。

オープニングセレモニーでは、崎津小学校の4年生32人が息の合った合唱と合奏を披露。11月30日にはバザーと喫茶コーナーが設けられ、多くの来場者でにぎわいました。



崎津小学校児童による演奏で文化祭の開幕です



児童と利用者様が一緒に作品を観賞しました



バザーはあっという間に完売しました



平成 25 年
(地域交流企画)
ふる里・椿庵・桜庵
合同餅つき会

和田小学校児童も元気に『よいしょ!よいしょ!』

毎年恒例の餅つき会は、寒い天候の中でしたが、今年の1年の感謝と来年への夢を託して盛大に開催。日頃交流のある小学校児童1年生～5年生20名が参加、地域の方々に杵の持ち方を教わり、元気な掛け声に合わせて力強い餅つきの音が響いていました。

ついた餅はぜんざいにして、皆さんで美味しく召し上がっていただきました。

地域の皆さま、ご協力ありがとうございました。

来年もますます地域との交流の絆と輪が広がりますように。



聖路加国際メディカルセンター 理事長 日野原重明先生を訪ねて 医療法人真誠会 名誉理事長

毎年 11 月頃になると私は日野原先生を訪ねることにしています。それは日野原先生に一年間の先生のご健勝とご活躍をお祝いし、また私が先生に一年間学ばせていただいたお礼と、毎年賀状に使っている日野原先生とのツーショットの写真を撮るためです。

昨年は 11 月 25 日に日野原先生のお部屋を訪問しました。先生のお部屋に入ると微笑をもって私を温かく迎えてくださいました。15 分から 20 分ぐらい先生のお話を伺うことができました。



日野原名誉理事長にインタビュー

小田理事長

日野原名誉理事長

日野原先生の今年1年間は、いかがでしたでしょうか。

マキシマム（極限）に達したような感じです。ほとんど毎日、仕事をすることで生きがいを感じる一方で、100歳を超えてもう少し自重した方がいいかな、と思います。忙中閑ありで、どういふかたちで憩いをとるかですが、私はどんどん俳句を書いています。俳句の中に私の心が表れるのです。来年は句集を出版します。

小田理事長

日野原名誉理事長

日野原先生のスケジュールを拝見しますと、札幌や京都など毎日のように全国で講演され、大変忙しくされていますね。

11月は8会場で講演しました。いろいろな方と話をしたり手紙をいただき、ますます生きがいを感じ、そのことが私の心や体を支えています。

小田理事長

日野原名誉理事長

日野原先生のエネルギーを私たちが受け継いでいかなければ、と思います。先生の来年の目標をお聞かせ下さい。

2020年に東京オリンピックが開かれます。これが私の一つの目標になります。世界の人たちが東京オリンピックを注目しています。聖路加国際メディカルセンターは、オリンピック委員会から人々の健康に関する依頼を受けているので、準備をしていかなければなりません。

小田理事長

日野原名誉理事長

聖路加国際病院の来年の目標をお聞かせ下さい。

新しいプロジェクトが見えてくるのがいいですね。残ったことを整理するのではなく、新しいことを受けて立つことが生きがいにつながります。

小田理事長

日野原名誉理事長

私は来年、70歳を迎えます。普通は引退を考える年齢ですが、日野原先生から学んだことをこれから具体的に生かしていくかが私のテーマです。

私は80歳で聖路加国際病院の院長を引き受けました。70歳はまだ若い。80歳が私のスタートでした。私はいのちを共にしている動物の保護にこれから精力を注ぎたいと考えています。愛し愛されることでエネルギーを持つことを訴えていきたい。久しぶりに小田先生とゆっくりと話をすることができてよかったと思います。

日野原先生と並んで写真を撮りました。そのとき日野原先生は右手を私の肩に手をまわして肩を組んでいただきました。その瞬間は私にとって平成 25 年の一番の至福の瞬間でした。その写真を新年に年賀状を通して見ていただくことが平成 26 年の最初の喜びでした。

